

鉄道駅のホームにおける転落事故防止対策の更なる充実を求める意見書

盲導犬を連れた視覚障がい者の男性が駅ホームから転落し、電車にはねられ死亡するという視覚に障がいを持つ方々の悲惨な事故が相次いで発生しています。日本盲人会連合が平成23年に実施したアンケートでは、約4割の視覚障がい者が駅ホームから転落した経験があり、約6割が転落しそうになったと回答しています。

転落防止策として有効なのは、ホームドアやホーム柵の設置です。国土交通省の検討会も「視覚障がい者の転落を防止するための設備として非常に効果が高く」と整備促進の重要性を説く報告書をまとめています。東京メトロ丸の内線では、全駅にホームドアを設置してから転落事故はゼロになったとのことです。

鉄道駅のホームドアの設置については、全国に約9,500ある駅のうち平成27年度末で665駅です。国土交通省が平成32年を目標に優先設置を求めている駅（1日当たりの利用者数が10万人以上）では、約250ある駅のうち3割程度の77駅に止まっています。

また、ホームドア等の設置だけでなく、駅ホームへの適切な人員配置を行うなど、転落事故をなくすためには、ハードとソフト両面の拡充が不可欠です。

よって、政府におかれては、視覚障がい者をはじめとして利用者が鉄道駅のホームを安全に利用できるように総合的な転落防止対策の検討を行うとともに、鉄道駅のホームの更なる安全性の向上を図るため、下記の措置を講じられるよう強く求めます。

記

- 1 全ての鉄道駅のホームについて、危険個所の実態調査を速やかに行うとともに、転落の危険性が高い鉄道駅については、速やかにホームドア等の設置を行うこと。
- 2 全ての鉄道駅に内方線付き点状ブロックの整備を促進すること。
- 3 ソフト面の対応として、希望者への駅係員の乗車補助や、一般旅客に対する誘導案内、さらには視覚障がい者への積極的な声掛け等の転落事故を未然に防止する対策を強化すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出します。

平成29年 3月22日

近江八幡市議会議員 井狩 光男

内閣総理大臣	安倍	晋三	殿	}	宛
厚生労働大臣	塩崎	恭久	殿		
国土交通大臣	石井	啓一	殿		